



プルトニウム燃料第一開発室  
グローブボックスの火災について

無党派 相沢 一正 議員

**議員** 火災現場の実情と火災原因、窒化物燃料とは何で、当該施設の中に13年も放置されていたのはなぜか。その重量と燃えたり容器から飛び散った燃料はどう処理されたか。  
**経済環境部長** 通常は使用していない窒化物燃料を保管していた容器からの発火で、その粉末を固めた樹脂に含まれるニトロセルロースが原因。間接的には、安全情報が適切に継承されなかったということも。

発火したステンレス製収納容器内のサンプル瓶は7個あり、うち3個が溶融した。化合物の重量は372.31グラム。残っている試料は約7グラムで、熱を加えるなど酸化処理を行う。その差（の溶融物）は消化剤と分けてチェックし、酸化処理してステンレス缶に詰めて保管する。保管場所は分からない。もう一つのステンレス缶には11個の瓶に小分けされており、その重量は1714.34グラム。

窒化物燃料はウラン窒化物、ウランプルトニウム混合窒化物とあり、高速炉用の新型燃料として研究さ

れ、保管のそれは平成7年から9年にかけて製造したもの。その後研究は中断し、グローブボックス内に保管してきた。今後窒化物燃料の研究を取りやめるといったことは聞いていない。

ウランとプルトニウムの量の（割合）は細かい資料がないので、即答はできない。

村は8月23日に嚴重注意文書を発出した。グローブボックス内に10年以上長期にわたり、使用予定のないものを発火の可能性はないとして保管してきたが、それが発火したということは機構が独自に決めた「事故防止策に関する自らの職場への反映等安全確保に対する感受性を高める取り組み」に疑問を抱かせるものだとし、嚴重注意とともに火災発生原因・対策、安全確保の取り組みについて速やかな報告を求めた。IAEAの査察は8月23日に行われ当該施設も実施された。



中央地区区画整理事業について

新和とうかい 大内 則夫 議員

**議員** 勝木田・下の内線の橋を含めた完成年度について伺います。  
**建設水道部長** 全体の進捗状況ですが、平成22年3月末の状況は事業費ベースで39.3%であります。これまで既存の住宅周辺を優先して整備を行ってきております。移転予定の戸数が全95戸のうち65戸が移転済みであります。

道路整備については、総延長で38.1%の進捗となっております。勝木田・下の内線は駅から海側に延びる五反田線、これを挟んで南側、北側の2つの工区に分けて事業を進めております。南側は、ほぼ道路形状はできております。今年度は雨水排水の整備を行う予定であり、南側の全面開通はおおむね2年後、平成24年度を予定しております。

一方、北側の工区は、今年度は荒谷台住宅の旧県道、東海中学校の西側の通り、その交差点と五反田線と交差点付近の道路築造を予定しております。今後は道路築造と併せて順次、家屋移転を進めて、23年度からは橋梁の設計を進めていく考えてお

ります。また、勝木田・下の内線の完成年度の目途ですが、橋梁部も含めて27年度を目標に取り組んでいく考えです。

**議員** 区画整理内の道路舗装について伺います。  
**建設水道部長** 地域の方々に土ぼり等々大変ご迷惑をお掛けしております。恐縮ですが、何とかご理解いただいて、早目に道路舗装等に移行できればと思っております。

区画整理内の区画道路につきましては基本的には道路築造後、3年くらいを目安に舗装を行っていくことで進めております。しかし、家屋の建て込み状況によっては、ここまで言っていられない状況も当然ありますので、その道路の持つ状況によって舗装の時期を早めていくことも検討していきたいと考えております。また、中央地区におきましては、既存道路を利用して生活している方々もおりますことから、そのような道路につきましては道路築造と併せて同時に舗装を行っていくことで進めております。